

## 2009年度、 2つの助成金事業に取り組みます！

教育部門「G-Free」代表 遠矢 家永子

「G-Free」では、2つの助成金を獲得することができました。

### ●近畿ろうきんNPOアワード助成事業奨励賞(20万円)

今年度の近畿ろうきんNPOアワードには104件もの応募があり、大賞1団体・優秀賞2団体・奨励賞7団体が審査委員会の書類審査によって選ばれました。

#### いただいた講評

「子どもの育ちに必要なジェンダーに関する人権教育プログラムは、必要はあるが専門性も大きい分野である。当団体には、丁寧に積み上げてきた人権教育の実績があり、それを拡充する本事業には、実現性にあわせて継続・発展性も感じられる。また、教材を活用して、これまで予算や距離の問題で実施ができていなかった団体に実践の機会を広げること、今後の効果・波及だけでなく、新しいネットワークの形成や連携が生まれることを期待したい。」

「これまで保育所や幼稚園で、SEANスタッフが実施してきたSEAプログラム(3歳〜8歳)を冊子教材「ジェンダーに気づこう!現場ですぐに使える教材」(シナリオ・パネルシアター型紙付/定価2000円)として発行します。それよって、子どもたちと日常の関わりを持つ先生方や地域の大人たちが直接プログラムを実施できることになり、実践者を増やすことで多くの子どもたちにジェンダー平等教育の提供を保障していきたいと思えます。

ジェンダーが子どもたちの育ちに大きな影響を及ぼし、生きにくさや支配構造、そして暴力を生み出している現実については、まだ社会的に理解が深まっているとは言えません。大人社会の理解が広まっていけないということは、子どもたちに直接届けられる教材も豊富に準備されていないという事です。実際にジェンダー平等教育を受けることが保障される子どもたちの数は極めて少ないのが現状です。

1999年に男女共同参画社会基本法が制定され、教育への取り組みが動き始めた矢先に、「男は男らしく、女は女らしく」を推進し基本法の理念をくつがえそうとするバックラッシュが起こりました。「ジェンダーフリー」という言葉の意味を歪曲し、誤った情報を流されてしまった結果、残念ながらジェンダー平等教育は足踏み状態となり、その後DVやストーカー、自殺問題に拍車がかかり現在に至っています。「G-Free」では、2002年のプログラム開発から少しずつではありますが教育現場での取り組みを続け、2007年度にパナソニックの協賛を得て小学生向けDVD教材を制作したことから、教材作成といった新たな取り組みを展開し始めています。

この助成金事業では、実践者養成講座開催も組み込んでおり、11月1日(日)高槻市市民総合交流センターにて実践者養成講座を開催いたします。午前は基本講座としてDVD教材を使用したファシリテーター養成講座を、午後はこの未就学児版教材を使用した実践者養成講座を開催しますので、関心のある方はぜひご参加ください。詳しくは、事務局まで!

### ●高槻市市民協働のまちづくり事業(25万円)

高槻市の協働をテーマとする助成金事業は、SEANは4年連続採択されました。今年申請したのは、「協働による人権教育『わたしもボクも☆みんな活き活き』実施と普及事業」で、8団体応募の中、選考委員会の審査を経て採択された4団体の中に残りました。

#### いただいた講評

「小学校や保育所における人権分野の実践をより豊かにする可能性がある事業であり、資源が少ない中での有効な手法と想われます。また、既存の拡充により活動の広がりが期待できる事業と考えます。」

取り組み内容は、高槻市教育委員会や保育課との協働により、教員研修の開催・教材の提供とモデル授業の実施(実施予定数：小学校4校・幼稚園3園・保育所3箇所)などを予定しています。この実践例をもとに、他地域にもプログラムの普及を広げていければと思っておりますので、「ご期待ください!」